

移動市長室会議録（平成24年 2月17日）

1 日 時：平成24年 2月17日（金）、10時00分～11時20分

2 場 所：市役所第5会議室（第1別館2階）

3 出席者：

『筑紫野市ごみ減量推進連絡協議会』

（市民団体）森田会長、椎葉幹事、砥綿幹事、今石幹事

（事業者団体）三宅副会長、大神幹事、松村幹事

（事業所）橋村幹事、北山幹事

（官公庁）檜木幹事

『筑紫野市』

藤田市長、今川市民生活部長、中川環境課長、福田環境課廃棄物担当係長、中村環境課主任、檜木秘書広報課長、原田秘書広報課主任

4 内容：団体の現状と課題、要望などについての懇談

（事務局） 皆さま、おはようございます。大変お忙しい中、ごみ減量推進連絡協議会幹事の皆さま方には、貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございます。

ただ今から平成23年度第7回移動市長室を開会させていただきます。

移動市長室はより細かく市民の皆様方の声を把握し、市政に反映させようとするものでございまして、藤田市長自らの発案として、昨年8月から始めております。また、市政をより身近に感じていただくことも目的としております。どうぞよろしく願いいたします。

本日の懇談は、お手元の次第のとおりに進めさせていただきます。

懇談の中では、ごみ減量推進連絡協議会の活動状況、課題などをお話しいただき、最後に森田会長から要望事項をお話しいただきます。

本日、市長は皆様方の活動状況を詳しくお聞きするというスタンスで参っております。お話の途中でいろいろと市長のほうから質問をさせていただきたいと思っております。最後、要望事項の回答は担当部長からいたします。

終了時刻をおおむね11時とさせていただきます。

本日の懇談内容は、会議録を作成いたしまして市民に公表させていただきます。また、お撮りしました写真は広報誌やホームページに掲載をさせていただきますので、ご了承ください。

有意義な懇談会となりますよう、よろしくお願いいたします。

では、まず初めに藤田筑紫野市長が皆さま方にごあいさつを申し上げます。

（藤田市長） 皆さま、おはようございます。

去年の4月15日にこの協議会の総会に参加し、ごあいさつさせていただいたのがつい最近のような気がしておりますが、私が市長に就任して1年が経過しました。自分の足で地域を巡り、市民の声、団体の活動を見ていきたいという思いで始めた移動市長室も、今回で7回目となります。

もっとも、今日、私は市長室からこの会議室まで歩いてきただけでしたが、皆さま方はそれぞれ遠いところからお越しいただきました。皆さまの方に移動していただいたということになりまして、誠に申し訳ありません話で恐縮でございます。

ともあれ、今日は皆さん方の活動をお聞かせいただき、筑紫野市の目標としております「みんなでつくる自然と街との共生都市ちくしの」、そして、循環型社会の形成に向け、力を注いでいきたいと思っております。

レジ袋の削減をはじめ、皆さま方が日常的な活動としてごみの減量に取り組んでいただ

いていることに、この場をかりて心から厚くお礼を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。今日はよろしく願いいたします。

(事務局) 続きまして、出席者の紹介にうつります。

行政側の出席者から順に自己紹介をさせていただきます。私は、本日司会を務めさせていただきます秘書広報課の檜木と申します。どうぞよろしく願いいたします。

(事務局) 同じく秘書広報課の原田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

(市民生活部長) おはようございます。市民生活部長の今川と申します。よろしく願いいたします。

(環境課) おはようございます。環境課長の中川と申します。よろしく願いいたします。

(環境課) 環境課廃棄物担当係長の福田です。よろしく願いいたします。

(環境課) 同じく環境課の中村と申します。よろしく願いいたします。

(事務局) 続きまして、ごみ減量推進連絡協議会からお願いいたします。

(森田会長) おはようございます。

私は、ゆのまち鷺田川をきれいにする会から推薦を受けて参加し、この協議会では会長をさせていただいております森田です。

本日は、市長がご多忙な中、このような機会を設けていただきまして本当にありがとうございます。また、日頃から私どもの協議会について、ご理解とご協力を賜り、改めて感謝申し上げたいと思っております。

今日は、私どもの協議会の活動と取り組みを説明させていただきます。今後とも行政と一体となって、私たちも活動を推進してまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

今から、ここにおります役員・幹事の自己紹介をさせていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(協議会幹事) おはようございます。筑紫野市商工会の三宅でございます。商工会ではごみ袋の販売をさせていただいておりますけれども、事業所の方からもいろんな要望ともございます。この協議会のように、みんなで一体となって取り組みをするというのは、本当に素晴らしいことだなと思っております。

筑紫野市民ではないもので、なかなか協力できないこともありますが、個人的には必ずマイバッグをポケットに入れております。何か買い物をするときには必ずこれを使います。

それと、家ではカレンダーをブックカバーにするなど、少しですけれどもごみ減量に努めているというところでございます。今日は、よろしく願いいたします。

(協議会幹事) おはようございます。筑紫野市の区長会から参加させていただいております椎葉真弓といたします。

一昨日、代表区長会がありまして、各行政区で一生懸命取り組んでいらっしゃいます資源回収についての加算金の件で、区長さんたちが「えー」と驚くような話が出ておりました。でも、これは財政問題があるのでしょうかない。各行政区が一生懸命取り組んで頑張ればいいのかと思っております。

本町区としては、筑紫野市がペットボトルを分別回収する前からペットボトルの回収をしてきましたし、平成5年からずっと毎月第3日曜日には鷺田川のごみ清掃もしております。また、明後日にも清掃をするのですが、大雨などで水かさが増しているときなど以外は長年にわたって頑張ってお取り組んでいただいて、おかげさまで、川の側を通る人からは、川がきれいになっている、と喜んでいただくようになりました。本当に住民の皆さんのおかげだと思っておりますし、市の方にも色々ご協力をいただいて感謝しております。

今後とも皆さんにお願いして一生懸命頑張っていたきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

(協議会幹事) おはようございます。筑紫野市子ども会育成会連絡協議会から出ております砥綿信子と申します。よろしくお願い申し上げます。

子ども会の関係では、ほとんどの子ども会で資源回収などを行っています。今は自治会と一緒に頑張って取り組んでいるところも増えてきているようです。

もっとごみを減らしていこうという子どもたちの意識を高めていくようなことができたらいいなと思いつながら、市子連(筑紫野市子ども会育成会連絡協議会)としては、なかなかそこまで取り組むことができず、声かけだけをしているという段階です。よろしくお願い申し上げます。

(協議会幹事) おはようございます。市内官公庁の8団体を代表しましてごみ減量に努めております代表幹事の檜木でございます。よろしくお願い申し上げます。

(協議会幹事) おはようございます。筑紫野市消費生活を考える会の今石と申します。

この会ができたのは今から20年くらい前で、まだ市が環境問題をあまり考えていらっしゃらないころでした。当時の宝満環境センターを見学したいと言っても市から断られ、では、どなたか市の方針を話してくださいと頼んだところ、課長になられたばかりの市川

さんという方に講演会に来ていただきました。

今はこの協議会もできましたし、市の環境課でも積極的にごみ減量に組んでいらっしゃいます。私たちはほっとしてお休み状態という感じもありますけども、個人的な活動としては、みんなそれぞれ買い物にもマイバッグを持っていきますし、車の中にも2つくらい予備を入れてあります。たまたまマイバッグがない時には、もったいないとも思うようになりました。皆さんがそういうふうになればいいなと思っております。

（協議会幹事） おはようございます。イオン九州株式会社イオン筑紫野店で副店長を担当させていただいております橋村昌治と申します。よろしくお願いいたします。

私は、事業所の幹事ということでやらせていただいておりますが、私どもは小売業として直接お客様と触れ合う企業でございますので、今のところはお客様に協力をお願いしながら、リサイクル回収としてはペットボトル、それからアルミ缶、紙パック、それから食品トレー、それとバイオマスプラスチックについてリサイクルボックスを設けまして、かなりお客様の協力をいただいております。

独自の取り組みとしては、毎週土曜日にダンボールと新聞紙、雑誌関係などの古紙回収をしております。お客様にはどんどん持ち込みをお願いして、増えている状況でございます。

それと、これはグループ全部になりますけれど、ペットボトルのキャップの回収も行っていきます。発展途上国ではワクチン不足で亡くなる子どもが多いということです。キャップを2,000個集めれば1人分のワクチンにかえられますので、そういったキャンペーンもお客様をお願いしています。各学校とか、地域の町内会とか、そういう団体様へ口コミでだんだんと広がりまして、かなり集まるようになっております。

あと、当然ながら業務の中ではレジ袋を使用させていただいておりますが、これもごみの原因の一つになっているということもございます。これについてもマイバッグキャンペーンなどを通じてお客様をお願いし、現状のところ食品の方では53%の方がマイバッグを持参し、レジ袋を辞退されるようになっております。休日は有料化に踏み切っているところもありますけど、それ以外の九州管内の店では、私どもが1番の数字ということで今のところやっておりますけど、この辺も力を入れてやっていきたいなというふうに思っております。

企業としてやるべきことはきちっとやらないかんということで取り組んでおりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(協議会幹事) ゆめタウン筑紫野の支配人の北山と申します。どうぞよろしく願いいたします。

実は、私1月の月末にこちらに赴任してまいりまして、また地元のことを分からない状況です。実は、今日のこの会にも初めて参加させていただいて、随分活発に事業展開していらっしゃるって、いい活動になっているなど、我々お店としてもこれからいろんな意味でご協力していきたいなと思います。

お店の取り組みとしては、イオンさんがおっしゃったように、トレーであったり、ペットボトルであったりというような資源回収や、レジ袋についてもなるべくたくさんの方にお願いしています。今、マイバッグの持参率53%という数字を聞いてびっくりしたんですが、我々のところではようやく3割といったところなので、もっともっとそういう啓発もしていきたいと思っています。

それと同時に、事業所のごみとして結構な量が出るものですから、例えばトレーをなるべく少なくするなど、そういうふうな活動を今やっている最中です。本当に少しずつではありますが、ごみの削減にもつながってきていますので、これをさらに進めていきたいと思っています。今後ともまずは地元慣れさせていただいて、それから活動を続けさせていただきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(協議会幹事) おはようございます。筑紫野市リサイクル事業協議会の松村と申します。

このリサイクル事業協議会は、やはり地元の業者でリサイクルを進めたいという想いをもち、地元の資源回収の団体4業者で作りまして、日ごろの生活の中で出るごみをまんべんなく回収しようということで、月2回、割り振り、担当地域を決めて、取り組んでいます。

リサイクルに関して関心を持つ団体などからいろいろ問い合わせなどもありますので、自分達の方から、これはこうしたほうがいいですよ、とかアドバイスしたりもしています。

個人的な取り組みとしては、買い物するとき、手に持てる部分の範囲以内であれば、レジ袋は拒否しております。

よろしく申し上げます。

(協議会幹事) おはようございます。筑紫野市リサイクル事業協議会の大神洋美と申します。

私は、筑紫野市の古紙回収リサイクルなどに取り組んでおります。うちの方でも市民団

体の方に対して、どんなものがリサイクルできるかなど、そういったことを学ぶための視察等も受け入れていますので、市長にもお時間があるものであれば、ぜひお越しいただければと思っております。今日はよろしく申し上げます。

（事務局） 各団体の活動状況を含めて御紹介をしていただきました。どうもありがとうございました。

それでは、ただいまから懇談にうつりたいと思います。初めに、推進協議会の会長の森田会長から活動の状況、課題等のお話を申し上げます。

（森田会長） この協議会は、市民と行政と事業所が一体となって、ごみの減量に努めて循環型社会の形成を推進していくことを目的として、活動しております。

この協議会が立ち上がる経緯についてですが、この協議会ができる前、平成15年から平成16年にかけての市民会議での議論を経て、家庭ごみの一般廃棄物と事業者の廃棄物、産業廃棄物も含めて事業者と市民の方が大量消費型社会から循環型社会への一体となって取り組まなければいけないということで、循環型社会形成アクションプログラムという行動計画が平成16年4月に策定されました。

そうした経過をふまえ、行動計画を実践していくための協議の場を立ち上げようということで、平成17年に準備会を立ち上げまして、平成18年2月13日、51団体の賛同のもとにこの協議会を設立することができました。

賛同団体は現在66団体となりました。市民団体が17団体、官公庁が8団体、それから事業者団体が11団体、それと事業所が30団体です。その賛同団体の中から幹事会の委員さんを選び、この幹事会でごみ減量推進連絡協議会の運営を行っております。

活動内容についてですが、この協議会の設立にあたり、1人1日当たり100グラムのごみ減量を目指そうという目標を掲げて、活動を始めたところです。

筑紫野市の人口は既に10万人を超し、今も増え続けておりますが、こういう状況の中で、平成18年に私たちがこの協議会を設立したのを境にごみの排出量は減っています。平成17年度に3万1,366トンあったものが、平成22年には2万8,470トンに減っています。1人1日当たりのごみの排出量についても、平成17年と平成22年度を比較してみますと104グラム減っています。こういう実績が現在見えてきています。

この幹事会は、4月、8月、12月以外の毎月第3金曜日、今日はちょっと変更しましたけれども、大体朝の9時から1時間程度開催しています。幹事会の委員には事業所の方もいらっしゃいますので、お店が始まる前に開催できるよう時間帯を考慮しまして、協議

を行っているところです。

運営については、本当は市民一人ひとりの意見を聞いていくというのが一番いいことなのでしょうが、市民、そして、事業者の代表として協議をさせていただいているところです。

具体的にどういう取り組みをしているかといいますと、一つには啓発チラシの作成をしています。ごみゼロ運動の日に併せて「自分でできるごみ減量」啓発チラシを作ったり、この協議会の活動を伝えるための「ごみ減量推進連絡協議会ニュース」というものを作成したりして、事業所さんについては商工会さんや市内の収集業者さんを通じて、市民の方には隣組回覧や全戸配布をしているところです。

特に大きな取り組みとして、一つには生涯学習センター前の広場を利用してフリーマーケットを行っています。いわゆる3R、リデュース、リユース、リサイクルの趣旨を踏まえて、中古の衣類や雑貨など、再利用できるものを持ち寄ってもらい、必要としている人たちに提供しようというものです。

フリーマーケットは毎年春と秋に行っているのですが、残念ながら平成23年度は2回とも雨で中止になりました。昨年度まではずっとお天気で、出展する方も買いに来る市民の方も非常に盛り上がってきておりました。出店を希望される団体も100団体を超えています。場所が限られていますので、出店者の場所は70から80くらいのブースしか用意できないのですが、それ以上の申し込みがあるので、抽選をして決めなければならないほど、非常に盛況でやっています。

このフリーマーケットにはいろんな方が来られるということで、平成22年度には、環境フェアと一緒に秋のフリーマーケットを行いました。私どもの方でフリーマーケットをして、その横で事業者さんなどがエコ工作教室を開いたりされておりました。この時に啓発の一環としてエコバッグを無料で配っています。

次に、ごみ減量リサイクルの取り組みについて一定の項目を満たす事業者を認定する、ごみ減量リサイクル協力店の認定制度を設けました。

項目については、私どもの協議会で検討いたしまして、全部で23項目を規定していますが、このうち5項目以上該当すれば協力店として認定されます。ただし、「ダンボール等の事業所から生じる廃棄物の減量化」と、「可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみをしっかり分別している」という2つの項目は必須項目となっています。また、特別項目として、「ごみ減量・リサイクルの企画を取得している（ISO14001、エコアクション21）」という

ものも規定しています。

今までのところ、18の事業所を認定しております。毎年、各事業所にこの認定制度の通知を行いまして、応募をしていただき、私ども協議会のメンバーや行政の方も事務所に
出向きまして現地を確認し、事業所がどういうことをされているかをヒアリングして、認定を行っております。この認定制度についてはホームページなどでもお知らせをしています。

次に、この幹事会と、賛同団体にも呼びかけまして、視察研修を行っています。

例えば古紙を回収した後どうなっているのか、自分たちの集めたトレーだとか、新聞紙だとかそういうのがどういうふうなりサイクルをされているかを学ぶための勉強会として、秋山商事株式会社、ポピー製紙株式会社、そして、株式会社寺松さんなどのところに行きました。

今年視察に行ったポピー製紙株式会社さんでは、新聞紙からトイレットペーパーをリサイクルされているところを見てきました。

この前視察研修に行ったゆめランチ山内さんでは、卵の殻を利用する取り組みが行われていました。例えば、マヨネーズをつくる時だとか、ケーキをつくる時だとかに、卵の殻が大量のごみとして出ますが、この卵の殻を使ったラインを作られているということです。昔は学校の校庭にラインを引くときなどに石灰を使っていましたが、その石灰に代わる、体と環境に優しいものを、ということで作られたということです。こちらを、市内の教育委員会を通じて各学校でも使っていただければ、と呼びかけています。

また、障害者の方と一緒に磁器や瀬戸物をつくってあって、環境問題と福祉を一緒にした事業をされているところもあります。

それから、テレビとか新聞等で先進地として知られる大木町の環境センターくるるんでは、紙おむつのリサイクルに取り組んでいます。他にも大木町では、町ぐるみで循環型の社会をつくることを決め、生ごみを肥料にするなど、行政と市民の方、農業をされている方などが一体となってすばらしい取り組みを実行しています。

次に、レジ袋削減に関する取り組みです。レジ袋1枚当たりの二酸化炭素の排出量は、61グラムといわれています。たかがレジ袋1枚という感覚もあるかもしれませんが、そういうものが積み重なって、二酸化炭素の削減にもつながります。このため、事業者さんと私どもの協議会と筑紫野市の三者で協定を結び、買い物ときにはマイバッグを持参して、レジ袋をできるだけ削減していこうという啓発に取り組んでいるところです。

現在は、8事業所と提携をしております。10月には、マイバッグのキャンペーンをゆめタウンとイオンで行いました。私どもの協議会と行政の方も一緒に協力して、マイバッグの使用に関する啓発や、アンケート調査を実施しています。

イオンさんだとマイバッグを持ってこられて、レジ袋を辞退された方には2円引きだとか、ゆめタウンさんであればポイントがつくとか、レジ袋を辞退されたお客様への特典を設けて取り組まれているという事業所もございます。

マイバッグを2,3枚は持っている、という家庭も増えてきました。マイバッグも大分、浸透してきたのではないかなと思います。

以上が、私どもの日常的な活動になります。

昨年、そして、その前の年にも、愛知県のとある市議会から行政視察がありました。特に、こういう市民と事業所と行政が三者共同でやっている取り組みというのは、やはり全国的にも珍しいというお話がありました。普通なら協議会や審議会であれば、費用弁償なり役員手当を出したりしているところが多い中で、この協議会では、そのような報酬等を一切なしで運営されているところにも感心されました。

私どもはボランティアとして活動しています。ごみ減量への強い想いを抱いて、この幹事会の委員を何年も引き続き引き受けている方もいらっしゃいます。

この協議会は、事業者さん、市民団体、そして、行政の協力のもとに続けられております。市民協働という観点から言えば、ぜひこういう協議会みたいな組織をいろいろなところで活用して、他の団体でもこのような取り組みができていけばいいのかなとも思っております。

私どもは本当に微力ではありますが、認定制度であるとか、レジ袋削減の協定であるとか、マイバッグキャンペーンなどを通じて、少しずつ取り組みが充実していったことで、1人当たり100グラムの減量という目標が達成できたのではないかと考えています。

不十分だった点もあるかもしれませんが、協議会の取り組みの説明については以上とさせていただきます。

(事務局) どうもありがとうございました。パワーポイントを使いながら、大変分かりやすいご説明をいただきました。

ただ今から質問や対談の時間をとりたいと思います。先ほど自己紹介の中で、各団体の取り組みについてもお話をさせていただきました。協議会の活動からは外れるのですが、せっかくなので、幾つかお尋ねしたいと思います。

まず、椎葉区長にお尋ねいたします。区長会では、毎年地域でごみゼロ運動に取り組んでいただいております。本当にありがとうございます。その中で、何か特色あるごみゼロ運動をなさってある地区などがあれば、ご紹介をいただけませんか。

(協議会幹事) 特色のあるごみゼロ運動ですか。

(事務局) 昨年、この協議会の総会で、鳥居区の実践について報告をいただいたことがあったかと思うのですが。

(協議会幹事) 鳥居区の場合であれば、子どもたちが中心になってしている取り組みがあります。以前は子ども会がしたり、老人会がしたり、行政区がしたりと、いろいろな取り組みがあったのですが、高齢者と子どもを集めて一緒に活動するというのは、昔からそうなのかもしれませんが、なかなか難しいですね。行政区が主導して、そこに子ども会や老人会なども一緒に協力しているというところが結構多いんじゃないかなと思います。そんな中で、鳥居区では子ども会が中心になってしているということで発表があったのだと思います。

(事務局) ありがとうございます。それともう一つ、団体の方にお尋ねしたいと思います。

リサイクル事業協議会の松村様と大神様にお尋ねしたいのですが、先ほど紹介の中で月に2回の取り組みをされているということをおっしゃっていましたが、その辺りのお話をもう少しお聞かせいただければと思います。

(協議会幹事) 常日頃から、1、2ヶ月に1回程度、資源回収をしているのですが、その中で、さらにリサイクル率を上げるためにはどうしたらいいのかと考えまして、地元のごみステーションをちょっとお借りして、定期的に月2回、事業者のメンバーでそれをエリアごとに個々の担当を決め、雨が降ろうと雪が降ろうと回収していただいています。

将来的にはそれがずっと広がっていけばいいんですが、今は14のエリアで、ここ十年近く取り組みを続けています。

また、リサイクルに関する質問に応える相談センターのようなものも設置しています。

まあ、そういったところで取り組んでいます。

(事務局) 市民の皆さまの意識というのは、年々高まってきているというふうに考えられますかね。

(協議会幹事) そうですね。例えば、雑紙としてストローの包装を分別して出されたりとか、窓付き封筒のビニールの部分を剥いであったりとか、今までにはないものが見ら

れるようになってきました。分別について意識を持ってもらえるようになってきたのであれば、これまで継続して取り組んできた甲斐があったかな、と感じております。

(事務局) ありがとうございます。続いてこの協議会の方に話題を移していきたいと思えます。

当初の賛同団体は51団体、最近では66団体にまで増えていますけども、今日に至るまでの推移と、例えばどういった団体に参加して欲しいかなど、協議会についての今後の考え方などを教えていただきたいのですが。

(森田会長) 賛同団体については、事業所団体さんにもいろいろと声はかけております。基本的には、もっと小規模な事業所さんにも入っていただきたいのですが、そこら辺が難しい。まだ呼びかけが足りないのかな、と私どもも思っております。

市民団体さんについては、小地区公民館連絡協議会だとか、区長会だとか、青少年育成市民会議だとか、各女性団体だとか、大きな団体などには参加いただいているのですが、もう少しそれより小回りがきくような市民グループなどにも賛同団体として参加していただければと思っております。環境分野についてもそういうグループの立ち上げがなされてきているようで、個別に取り組まれている団体というものが、結構多いと思うんです。

(事務局) 参加の呼びかけは、この協議会から行っているのですか。

(森田会長) この協議会の中でも、どういう団体に呼びかけようかということも議論し、個別にお願いしていますし、市の方からもお願いしていただいております。

(事務局) 賛同団体がもっともっと増えていけば、さらに活動が広がりますね。

(森田会長) 今回、賛同団体の研修会に行きましたが、参加者として、時間がちょうどとれたからということで飲食店の組合の方にも入っていただきました。このように賛同団体の方にもいろんなところで、私どもと一緒にお手伝いをさせていただいたり、私どもの趣旨を伝えていく取り組みを増やしたりしていきたいなと思っております。賛同団体の下にも、またそれぞれの組織がありますので、その隅々まで行き渡るよう、私どもも啓発などをしていかないといけないのかなと思っております。

(事務局) ありがとうございます。続けて、質問をさせていただきたいと思えます。

大きな行事として、春、秋のフリーマーケットというすばらしい取り組みをされていますが、その準備はさぞかし大変だろうと思えます。特に秋には、生涯学習フェスティバルと、環境フェアにも参加いただいておりますよね。その辺りの苦労話や、最近の傾向など

についてお話いただけますか。

(森田会長) フリーマーケットでの一番の問題は、天候です。朝のうちに雨が降って、もうやめましょうって決定した後に、10時くらいから雨が上がったりとすると、もうブッキングが起きましてですね。

それから、あとは駐車場の確保がちょっと厳しいかなというところですね。フリーマーケットは生涯学習センターの前で行っていますが、生涯学習センターや、市民図書館を利用される方にも駐車場が必要です。

まあ、一番の問題は、お天気ですね。

(事務局) フリーマーケットの開催前に、出店者を募集されますよね。その募集に対して、出店希望者が多すぎて調整しなければならないという状況があるんですかね。

(森田会長) 出店希望者はいつも多すぎて、抽選で振り分けています。実際に出店できるのは70から80程度ですが、出店希望者は100とか、一番最高で160くらいになります。

(藤田市長) 160。倍くらいですね。

(森田会長) はい。フリーマーケットは定着してしまっていて、本当は2回じゃなくて、3回でも4回でもしてくださいというような声が上がっているような状況ですね。

環境フェアについては、前は生涯学習フェスティバルと一緒にされていました。それを切り離して、秋の環境フェアという形で実施していますが、これは生涯学習フェスティバルと切り離されても、十分に環境の啓発に繋がると私は思っています。むしろ、生涯学習フェスティバルと一緒に環境フェアを開催していたときには、どちらかというところ、端っここのほうで、スペースが足りなかったかなというところがありましたので。生涯学習フェスティバルとは分けて、行政と事業所さんも一緒に、フリーマーケットと環境フェアを一緒に催して、取り組みをしたことは良かったのではないかなと思っています。

ただ、天気に左右されるようになったことは、他の団体の方は申しわけなかったかなと思っています。生涯学習フェスティバルと一緒に開催していたときは、テントなどを張ってあったので、雨の日でも実施できたのですが、私どものフリーマーケットはテントを張らないでやるもので、雨で中止になってしまったのです。

(事務局) 2回連続で雨により中止になりましたよね。フリーマーケットに出品される内容の傾向であるとか、来場される市民の方の反応などはいかがでしょう。

(森田会長) そうですね、基本的には中古のものとか、雑貨とかですね。以前は、例

えばお歳暮だとかお中元でいただいたもので、自分のところはもう使わないからタオルだとか、石鹸だとかそういうものを出していたということが結構あったのですが、最近はそのようなものも世の中の流れで少なくなってきていますよね。引き出物にしても、カタログを渡して、好きなものを選べるようになっていきますから。

どちらかという子どもさんの衣類関係が多くなっていて、来場される方もお母さんと子ども連れというのが結構多くなってきています。昔みたいに本当に傷んだものというのは、あまりないんですよ。子どもさんが1人か2人しかいないという家庭状況では、下の子に服を譲るということも少ないのか、子ども服も本当に傷んだものはなくて、本当にきれいなものですね。1、2年で子供たちはすぐ大きくなりますから、子ども服というのは長年着るものでもありませんし、そういった意味で、子どもたちのものというのが非常に多くなってきています。

おもちゃとかもそうですね。10円とか、20円とかで買えるものとかもありますので、小さい子どもたちがやってきて、一緒に楽しくやっています。

(協議会幹事) ぬいぐるみだとか、赤ちゃんのベビー服なんかね。うちの孫なんかもみんなそうです。

(藤田市長) なるほどですね。

(森田会長) 赤ちゃん用品なんていうものは、その時期だけですね。

(事務局) 以前は、リサイクル品を買って使うことにためらう方もいたように思いますが、今はもうそういった抵抗感というのがなくなってきていますよね。衣類であっても、自分にあうならば買おうと、そういうようにどんどん浸透してきている。

さて、協議会では、10月にレジ袋削減のためのマイバッグキャンペーンを実施していただいておりますが、その市民の反響などはいかがでしょう。

(森田会長) 昨年10月のキャンペーンのときは、買い物される方が多い夕方の時間帯を設定していたのですが、配り始める前からずっと並ばれていたんです。エコバッグは300くらい用意していたのですが、わりと短時間でなくなりました。

マイバッグをもらいに来られた時にアンケートに答えてくれる方も増えました。

マイバッグキャンペーンでの取り組みも定着してきて、無料配布しますといたら、並んでいるところが多いですね。

このマイバッグは、マイバッグの推進PRのために、福岡都市圏での配布用として支給されているものと、私どもが用意するものとあるのですが、材質や、大きさ、デザインな

どが毎年若干変わるんです。前のがよかったと言われることもあります。

(協議会幹事) マイバッグは随分配ったはずなんですけど、配ったマイバッグを持っている人を街中ではなかなか見たことがないんですね。皆さんありますか。

(協議会幹事) ないですね。

(協議会幹事) グリーンのエコバッグは使っている人は見たことがある。

(協議会幹事) あのグリーンのは意外によかった。

(事務局) 生地は何でできているんですか。

(森田会長) いろいろですね。今日、幾つかサンプルを持ってきていますので、実際に手にとって見ていただきたいと思います。これですね。

(藤田市長) (エコバッグを手に持って)なるほどですね。

(森田会長) このようにいろいろなエコバッグを用意しています。

(協議会幹事) 見た目は良いけど、使うのには不便というものもありますね。

(協議会幹事) 県からもらっているのはどうも今ひとつで。大きいのがいいですね。

(協議会幹事) 今年度いただいたのは余りよくない。

(協議会幹事) 生地から言ったら、ナイロン製みたいなのがいいですね。

(藤田市長) こちらの紫のエコバッグは、紫プロジェクトの一環として商工会で作られたものかと思いました。

(協議会幹事) 商工会のものではありませんが、これは、結構喜ばれます。

(藤田市長) なるほど、いろいろな形のものがあるんですね。

(協議会幹事) この大きい袋には、荷物が結構入って便利です。

(協議会幹事) このいろいろなエコバッグも、デパートなんかで売っています。

(協議会幹事) 何千円とかね。

(協議会幹事) 値段は高いといえば高いですよ。

(藤田市長) (エコバッグを手に持って)この青いエコバッグは、また大きいですね。これはいっぱい物が入りますよ。

(事務局) 男性も、買い物行くときには、エコバッグを畳んでポケットの中とかに入れておいたらいいですね。

(森田会長) 女性は自分のバッグの中にエコバッグを入れて買い物に行きますが、男性でエコバッグを持ち歩く方は少ないですものね。男性の方にも、もっとエコバッグを利用して欲しいなと思います。

(協議会幹事) マイバッグキャンペーンのときには、必ずアンケートを書かないと、エコバッグがもらえないんですけど、皆さんどんどんもらっていかれる。それにはびっくりしますね。あと、キャンペーンをするときは、たくさん人がいる時間帯にしないと、なかなかかどらないことがありますね。

(協議会幹事) たくさん人がいると、周りの人も何だろうと思って、さらに集まってくるからね。

(事務局) エコバッグを使用される方が多い年齢層とかはありますか。

(協議会幹事) 年齢層とかはあまりないですね。

(協議会幹事) 小さい子どもを連れた人もマイバッグキャンペーンの時には来てくれます。

(協議会幹事) どの年代でも、ちゃんと意識がある方はエコバッグを使っていますし、全く無関心という人も中にはいます。男性でも近ごろは、関心を持ってアンケートに答えてくれる方も増えています。

(協議会幹事) お店の立地条件によっても違うみたいですね。駅の近くのスーパーなどはどちらかというところ、エコバッグを持っていく人が少ないですね。お勤め帰りだとか、学生さんが学校帰りに買い物に立ち寄るといった人が多いから、エコバッグを持ってきていない。

(協議会幹事) エコバッグキャンペーンなどをするとき、例えば、店側が特売セールとかをしている時間外にあわせると、お客さんがいっぱいいらっしゃるから、アンケートに答える方も多くなります。

(藤田市長) なるほどですね。

(協議会幹事) あと、お店の従業員の方も、もらいに来られたりしていますね。

(協議会幹事) それから、イオンでのお客様の反応ですが、昨年10月のマイバッグキャンペーンのとき、318人のお客様からいただいたアンケートの結果の数字があるのですが、レジ袋を断っているお客様が大体58.5%でした。その1年前が52.1%でしたから、6.4%増えています。

アンケートにはレジ袋の有料化についての項目もあるのですが、44%のお客様は有料化に賛成と、これについては逆に6.4%、その1年前より減っています。レジ袋有料化反対というお客様は18.2%で、これはその1年前より4.4%増えています。

やはり景気の影響で消費も低迷していますので、この辺は、お客様が社会的に考えるお

お客様と生活重視のお客様とははっきりと分かれてきたのかな、というようにも思います。

(事務局) 考え方が分かれてきているということですね。

さて、最後の質問になるのですが、この協議会として、今後、特にどのような分野に力を入れていくのかお尋ねしたいと思います。

(森田会長) 先ほどからのレジ袋の削減の話ですが、現在のところマイバッグの平均持参率というのは32%くらいになっていますね。基本的にレジ袋の削減のための有効な手段というのは、やはりレジ袋の有料化ではないかなと思うんです。他の県の事例を見ると、有料化しているところは、やはりマイバッグの持参率がぐっと上がっています。

ただし、レジ袋の有料化を実際に行うと、お客様の離れる原因の1つにもなります。例えば、筑紫野市だけが有料化に取り組んでも、太宰府市とか大野城市などの近隣のお店がレジ袋を有料化していなければ、お客様がそちらの方に流れてしまう可能性というのがあるわけですね。

そういった意味では、この筑紫野市だけではなくて、他の市町村さんとも一緒に足並みをそろえて、広域的にこのレジ袋の削減、有料化の取り組みを進めていこうということを目指し市としても呼びかけなり、県と一緒に取り組んでいただければと思っております。

私ももレジ袋の削減については、マイバッグキャンペーンをずっと続けて、取り組みをさせていただきましても、事業所さんからも、一番手っ取り早い手段としてはレジ袋の有料化が一番早いのではないですか、という意見も出ております。

これは、レジ袋の有料化の取り組みについて、広域的に進めて欲しいという市への要望でございます。

(事務局) 森田会長からの要望事項について、市民生活部長からお答えいただけますか。

(市民生活部長) レジ袋有料化についてですが、今、事業所さんでもポイントをつけるとか、値引きなどをしているので、実質的には有料化と似たような取り組みを行っていただいております。また、県下ではレジ袋削減の方策の一つとして、10月に九州統一マイバッグキャンペーンを実施し、参加店へのポスター提示等を通じてマイバッグ運動の啓発にも取り組んでいるところです。

それから、福岡都市圏環境行政推進協議会というものがございまして、福岡都市圏の17市町が集まり福岡都市圏の環境問題について協議しており、マイバッグ運動にも取り組んでいるところです。この福岡都市圏環境行政推進協議会でもレジ袋削減は重要な課題

であると考えて会議をしておりますが、県内で筑紫野市のように自主的にレジ袋の削減の協定書まで結んでいる団体というのは、福岡市と宗像市、筑紫野市のまだ3団体しかありませんね。

ごみ減量推進連絡協議会のおかげで、筑紫野市では先進的な事例としての取り組みをしていると言われており、私は本当にうれしく思っていますが、同様の取り組みはまだ3市だけです。まずは、このような活動をまず都市圏内のいろんな団体にお話しながら、それぞれ取り組んでいただき、それから、全県下での取り組みになるのかなと思っております。

県内の各団体が本市のようにレジ袋削減の協定を結ぶような状況になって、その後にレジ袋の有料化などについても勉強して行きたいと思えます。今後とも環境行政推進連絡協議会などで勉強させていただくということで考えていますので、よろしくお願ひします。

(事務局) 最後に、どうしても自分たちの団体で何かというようなご意見があればお願ひいたします。

(協議会幹事) ごみ袋の値段の問題についてちょっと気になっていることがあります。

筑紫野市のごみ袋の値段が高過ぎるとかということが議会なんかで言われたとかいう話をちょっと耳に挟んだんです。

そのことで、うちの団体の役員で世間話として話をしていたのですが、やはり考え方として、ごみ袋をつくるコストと、売っている値段の差で利益が上がっていて高いとか言っているのはおかしいよね、私たちがごみを焼却してもらうためのコストが加味された上で値段が決められているのにそれを安くしてもらうとか考えるのはおかしいんじゃないかな、という意見が出ました。

ごみ袋の値段が高過ぎると思われるならば、ごみを減らすようにすればごみ袋を使う量も減るわけだから、ごみを減らすようにみんな考えてくださいとなっていけばいいなと思ひます。

ごみ袋が他よりちょっと高いのは、それだけごみの処理にお金がかかっているということ。有料であるのが当然であるというふうに思ひますので、よろしくお願ひいたします。

この考えは、この協議会でも話しましたが、理事会としてはみんな同じ考えです。

(協議会幹事) 啓発をもっといっぱいされたらいいかもしれないですね。ごみ袋の値段は、単なる袋代だけじゃないよって。

(協議会幹事) 処理費だよって。

(協議会幹事) そうそう、その辺をもっといろんなところに啓発していくのがいいかもしれないですね。

(事務局) わかりました。

(森田会長) あと1つ、環境衛生推進員制度についてよろしいでしょうか。

基本的には各区長が推進員となり、その推進員の下に、これは隣組長さんになることが多いと思うのですが、環境衛生推進協力員という方がいらっしゃるしまして、ごみゼロ運動だとか、新聞回収の推進だとかの役割を担っています。

この推進員や協力員を対象として視察研修が行われているのですが、82行政区のうち9くらいの固定したところしか行ってない。視察などにかかる費用が大体年間60万円くらいとなっていますけど、利用するのが同じ行政区、同じ団体に固定されているというのは、ちょっと見直しをされてはいいかなということを私は思っております。

資源ごみの回収についても、推進員や協力員のうち、実体としてどれだけの方が協力されているのか。例えば、子ども会だとか、老人会とか、管理組合だとかで取り組みをされていますけど、この推進委員や協力員さんが資源ごみの回収について、どれくらい指導なり協力をされているのかなということも、私としては若干疑問に感じているところなんです。

湯町なんかはずっと毎年視察研修を行っています。組長さんが代わるたびに視察をしているんですけど、もう何年も続いているので、どうかなというところもある。視察研修をすることはいいと思いますけど、限られた市民団体だけで利用しているというのは、良くないと思います。やはり、いろんな方に啓発をするチャンスを与えていただくよう、見直しを含めて、市から提案してもらいたいと思います。例えば、推進員の会議を年に1回行っていますが、この会議をクリーンヒル宝満で行って、施設を見てもらえば、それだけでも推進員さんへの視察になると思うんです。ここは少し市のお金が費やされているところですので、それを有効に使われるように見直しをしていただきたいという要望です。

行政区としての立場からのお願いになると思うのですが、よろしく願います。すみません。

(事務局) ありがとうございます。他にございませんでしょうか。他にございませんようですので、以上をもちまして本日の議題はすべて終わらせていただきます。皆様方からは、大変有意義なお話をいただくことができました。本当にありがとうございました。

最後に、藤田市長からお礼の言葉を申し上げさせていただきます。

(藤田市長) 本日の移動市長室では、質問をしたかったこともいろいろあったんですが、その必要もないくらいに皆さまからどんどん回答を出していただきました。特にレジ袋の削減などに関しましては非常に活発な意見が出され、最終的には、なかなかありがたい提言までいただきました。

環境フェアについては、森田会長からは天気が一番気になるというお話をいただきましたが、フリーマーケットの売り上げを原資として、この協議会の活動なりをしていることも考えますと、何かお天気を気にせずに行えるようなことが何かできないかなと思います。

協議会での報酬の件についてボランティアとしてやっているというお話もありましたが、自助、共助、公助という考え方について改めて思い知らされました。今の時代、自助、そして、共助というものが成り立たなければ、公助がつぶれてしまうというところまで来ています。

ごみ減量推進連絡協議会という組織に66団体の賛同団体が参加し、考え方の根底として自助、共助というようなものを持っていただいているということを感じ取ることができて、今日は本当に感謝したところでございます。また、イオンさんにゆめタウンさん、事業者の皆さま方には、企業の立場から協力していただいているということに、この場をかりてあらためてお礼を申し上げたいと思っております。

市の抱えた問題というのはいろんな問題がございますが、しっかり入と出のバランスをとり、自助、共助、公助という立場から市民サービスの向上に努めてまいりたいと思っております。

私も2年目に入りましたので、1年目にはない自分にあった特色も少しずつ出しながら、住みやすい、子や孫に誇れるような筑紫野市をつくっていきたいと思っております。

皆さま方のお考えの根幹にあるものを今日感じとらせていただいたことで、これからの市政運営にも大変参考になりました。心からお礼を申し上げ、今日の移動市長室の結びのごあいさつにかえさせていただきます。

今日は本当にありがとうございました。

(事務局) 長時間ありがとうございました。これで移動市長室を終了させていただきます。